

# ANDREA DEL SARTO

## CALLED "THE FAULTLESS PAINTER"

But do not let us quarrel any more,  
No, my Lucrezia; bear with me for once :  
Sit down and all shall happen as you wish.  
You turn your face, but does it bring your heart ?  
I'll work then for your friend's friend, never fear,  
Treat his own subject after his own way,  
Fix his own time, accept too his own price,  
And shut the money into this small hand  
When next it takes mine. Will it? tenderly ?  
Oh, I'll content him, — but to-morrow, Love!

10

- 1 **Andrea del Sarto** の del Sarto はイタリア語で of the Tailor の意
- 2 **bear with** = be patient with
- 5 **your friend's friend** は「お前の恋人の友達」という意
- 7 **his own price** = what must be given by him 彼の謝金
- 10 **but to-morrow** = only to-morrow

---

### 解 説

**鑑賞の方法** この詩を精密に理解鑑賞するには少くとも以下三つの事柄を念頭におかねばならぬ。

1. 作者 Browning がイタリアの Florence に滞在中に Pitti Palazzo (美術館) で "The portrait of Andrea del Sarto and his wife" という1枚の絵を見出して、これを入念に眺めながらこの1篇の詩を書いたということである。しかもその絵をただ参考にしたというのではない。その画面を一幕の舞台として、絵の中の主人公に科白を語らしめているのである。この事実を

# 仕立屋のアンドリア

別名「失策なしの画家」

だがもう口論はやめにしよう、  
ねえ、ルークレチア； 一度だけは勘忍しておくれ：  
おすわり、なんでもあんたの望みどおりにしてあげよう。  
顔をこちらに向けましたね、気持ちもそっているかな？  
わたしはあんたの友達の友達とやりに画をかこう、心配なさるな、  
その人の好みそのままの題材にして、  
時も先方次第にきめ、謝金もむこうさまのままに受取り、  
その金は、この可愛い手がこの次にわたしの手を取る時に握らせてあげよう  
いいかね？ 気をつけてね？  
そうだ、その方をよるこばせよう、すぐ明日だよ！ ね！

---

適確に捉えたいうで取扱わなければ、以下 267 行のこの monologue の読解は相当に困難である。

蔽密にいうと、この詩全体に表現される思想も専柄も、実はこの画面からは一步もでていない。たとえば Raphael (本文では Rafael と誌している)\*とか Michelangelo とか Leonard とか Pope とか King などいろいろの人物やその周辺の事柄などが語られるが、これらはただ主人公の話のあやにすぎない。敘事詩や史詩の場合のように作者が一時本筋から離れて別個の事柄を挿入するのとは自らわけが違ふ。これを度外視すると筋がとぎれてますます解らなくなる。(※註：Raphael はギリシヤ風、Rafael はラテン風の綴りである)

I often am much wearier than you think,  
 This evening more than usual, and it seems  
 As if — forgive now — should you let me sit  
 Here by the window with your hand in mine  
 And look a half-hour forth on Fiesole, 15  
 Both of one mind, as married people use,  
 Quietly, quietly, the evening through,  
 I might get up to-morrow to my work  
 Cheerful and fresh as ever. Let us try.  
 To-morrow how you shall be glad for this! 20  
 Your soft hand is a woman of itself,  
 And mine the man's bared breast she curls inside.  
 Don't count the time lost, either ; you must serve  
 For each of the five pictures we require —  
 It saves a model. So! keep looking so — 25

- 14 **Fiesole** ; Florence の東北 3 m の丘陵地帯にある古代ローマの古都，巨大な城壁，劇場，大浴場などの遺跡あり，今日はドミニカンの大修道院があるによって知られる。  
 19 **as ever** — as cheerful and fresh as ever I was と解した。  
 22 **she curls inside** — she は妻の手であるが胸に抱かれる妻に擬人化している。  
 22 **bared breast** の次に and を補って読む  
 25 **It saves a model** = It relieves from need of a model

2. 要するにこの詩は徹頭徹尾主人公の独白 monologue である。けれどもそれは Shakespeare の Hamlet の “To be or not to be, — that is the question!” に始るものとか，おなじく Macbeth の有名な “To-morrow, and to-morrow, and to-morrow, creeps in this petty pace—” などのように，何の対象もなしに主人公が心の底を口走るようなものではない。これらに較べるとこの詩の独白は一種の会話である。時には相手の名前さえも呼びかけていて，はっきりと眼の前に話し相手のいることがわかる。ただ主人公の科白に対して即妙な返答がないばかりで，やむなくも独り科白になっているのである。

仕立屋のアンドリア

わしはいつもあんたの思うよりはずっと疲れやすいのだ、  
今夜はとくにそうなんだ、だからね  
ごめんよ—あんたにこの窓際に座らせてもらって、  
あんたの手をとりながら半時間ばかり、  
あのフィエゾーレを眺めたいんだ、  
夫婦者のするように、二人が一つ心になって、  
静かに落ちついてこの夕をすごせば、  
わしは、明朝は、かつて無いほどの元気で  
起きて仕事につけるはずだ。そうとしよう。  
明日だよ、これであんたはどんなに嬉しがることか！  
この柔かい手は女そのものだね  
わしの手は男のはだけた胸で、女はその中にまるまっている。  
お互に、時間をむだにすとは思ひまい、あんたは  
描くべき5枚の画のどれにも一役買わねばならぬ；  
モデル料もたすかるわけだ。そうそう！ その顔つきをしておればよい——

---

3. 次にこの詩の最初の行から最終の行までに、主人公とその妻とが対座しながら過された時間はどれほどであるかを心得ておく必要がある。一般の劇作の場合には、その内容によって開幕から終幕までに盛られている時間的経過は相当に長い。たとえば Hamlet 劇の場合に、初めの亡霊出現から最後の破局にいたるまでの時の経過は果してどれほどであるか。或人は2ヶ月と看做し、或人は2年という。また Macbeth のごときは2年説、10年説、15年説などほとんど定説はありえない。ところがこの詩にはそうした意味の時間的内容はないと心得ねばならぬ。静かに一行一行と読んでゆくその実際上の時間経過が筋の内容なのである。それはせいぜい4、50分間であらう。主

My serpentining beauty, rounds on rounds !  
 — How could you ever prick those perfect ears,  
 Even to put the pearl there ! oh, so sweet —  
 My face, my moon, my everybody's moon,  
 Which everybody looks on and calls his, 30  
 And, I suppose, is looked on by in turn,  
 While she looks — no one's : very dear, no less !  
 You smile ? why, there's my picture ready made.  
 There's what we painters call our harmony !  
 A common greyness silvers everything, —  
 All in a twilight, you and I alike  
 — You, at the point of your first pride in me  
 (That's gone you know), — but I, at every point ;  
 My youth, my hope, my art, being all toned down  
 To yonder sober pleasant Fiesole. 40

- 26 **serpentining beauty** = sinuous beautiful woman  
 26 **rounds on** = makes plump 丸々と太らせる。  
 31 **by in turn** = by everybody in turn  
 35 **silvers everything** = turns everything white  
 39 **being toned down to** = being softened to = 色があせていく。

---

人公 Andrea とその妻 Lucrezia との対座，主人公の沈鬱な言葉，それに対応してわずかに表わす妻の微笑，不満げな目付き，その間におのずから表現される主人公の人生観，世界観，宗教観，これらがこの詩の内容であり，全体なのである。場面とは画面に見えるフローレンスの黄昏，出場人物は二人きり，場所は Florence の Andrea の邸宅の居間であろう。初めも終わりもこの3つの要素には変りはない。中世演劇に肝要な要素とされた三一致 (triuinity) とはこんなことかも知れない。要するにこの詩を読む場合，筋の経過は舞台面の経過のままである。それ以外に外れた瞬間に錯誤が生じる。二人の人物は座ったまま，その一人でも何処かに動いたと思えばもうそれが誤解

くねりくねりとしたこの美女、丸々と肥えている！  
こんな申分のないみみたぶに、たとえ真珠をはめるにしろ  
なんで小穴など造ったのか！ なんて かわいい——  
この顔、この満月、この万人共有の満月  
誰でもが眺めては、自分のものと呼んでいる、  
だが、こもごもに眺められながら、月は  
誰のものでもない——顔つきをしている：ほんとにいとしい。  
にっこりなされたね？ それ、それがわしの絵の仕上りだ、  
それがわしたち画家どもの調和というものなのだ！  
一面の夕暗がなべての物を銀白色に染めてきた——  
すっかりたそがれてきた、あんたもわしもおなじに  
——あんたはわしを最初に誇りとした点で

(それが消えた事は知ってのとおり) ——だがわしは、すべての点でだ；  
わしの青春、わしの希望、わしの芸術、それら一切は、むこうの  
寂しくも美しい(荒廃の)フィエゾーレへと色あせてゆく。

---

のもとになる。主人公がほんの一回だけ白墨で画面に修正のまねをする所作があるが、これも筋にはほとんど影響はない。まずこうしたことを念頭において虚心に文脈をたどればよい。

**絵の内容** その問題の絵とはどんなものであったかがある程度知る必要がある。Ernest Radford の記録によると「Andrea と妻とが窓際の腰掛に身をおいている。彼の顔にはなにか弁解がましい不安の色を見せて、上体を妻の方にむけ、右手をのべてその脊を抱くようにし、自分から失せてゆく活力を妻の顔に探しもとめるように下からのぞいている。彼女は手に一通の手紙を持っているが、視線は手紙にも、夫の顔にもそそがれずに、うわのそらで画面

There's the bell clinking from the chapel-top ;  
 That length of convent-wall across the way  
 Holds the trees safer, huddled more inside ;  
 The last monk leaves the garden ; days decrease  
 And autumn grows, autumn in everything.  
 Eh? the whole seems to fall into a shape  
 As if I saw alike my work and self  
 And all that I was born to be and do,  
 A twilight-piece. Love, we are in God's hand.  
 How strange now, looks the life he makes us lead!  
 So free we seem, so fettered fast we are :  
 I feel he laid the fetter : let it lie!  
 This chamber for example — turn your head —  
 All that's behind us! You don't understand  
 Nor care to understand about my art,

50

42 **That length of** = That extent of

44 **garden** 菜園, 果樹園の意 (garden stuff, vegetable & fruits ; C. O. D.)

46 **fall into a shape** の shape は L 46 の twilight-piece の先行詞と見る。

54 **All that's behind us** / は空間的に背後の意でもあるが、時間的に過去の作品という意も含まれている。78行の I am judged に関連して考えさせられる。

---

の外にそれてしまっている。紅褐色の美しい髪はしなやかだが、乱れている。顔は無表情そのもの、このような顔にはともすると沈黙の痼癪が潜むものだが、そんな怒りや気概さえ見えない。柔和そのもの、だが同時に、自分は身勝手にしようという一種の捨て鉢な頑固さがほのみえる」というのである。科白に照合すると季節は秋の暮、時刻はたそがれ、あたり一帯に銀灰色の暮色がただよい、遙か3マイルの丘陵地帯に Fiesole の古都が見えているようだ。

**憂鬱の Andrea** 主人公はどんな人物か。これは必ずしも詩人 Browning の詩的空想から生れた者ではない。イタリアの美術史上に、ことにその Rena-

聖堂の塔から鐘がひびいている；  
路のむこうの僧院の囲いいっぱい  
樹々が安全にかくまわれて、中の方がよく繁っている；  
菜園にいた修道士の最後の一人も去ってゆく； 日は短くなる、  
こうして秋は深まる、一切のものの秋だ。  
はてな？ 全体が一つの絵にまとまってきて、まるで  
わしは、自分の仕事、自分自身、さらには、わしが生れて  
ながらえて、なすべかりし事の一切が、黄昏という  
一幅の絵に見るような想いだ。妻よ、吾々は神のみ手の中にいるのだ。  
神の導く吾々の生涯は、今さら何とも不可思議に思われる；  
いかにも自由そうだが、がっちりと枷をはめられている！  
神が枷をかけられたとわしは思う： そのままにすべきだ！  
たとえばこの部屋——ふりむいてごらん——  
二人のうしろのものすべてだ！ あんたはわしの芸術を  
解りはせず、解ろうともしていない。

---

issance の頃に、明瞭に業績をのこした一人の画家であり、Florence の美術館の一つ Palazzo Pitti には彼の作品が世界の宝物として陳列されているという。Andrea の別名は “The faultless Painter” 「失策なしの画工」というのであるからその技量のほどは疑うべくもない。「わたしは素描も習作も必要としない。描きたいと思うものは何でもすぐ描ける」と自信満々でいっている。また曾ての弟子の一人で、後にはイタリアの美術史家となった Giorgio Vasari (1511-74) の記録によっても「彼の素描はほんの心覚えのためだけで、至極簡単なものであった」と誌している。同僚の巨匠 Michelangelo にも、美術の鑑識の秀れた仏王 Francis I にも、その技能を知られていたの



But you can hear at least when people speak ;  
 And that cartoon, the second from the door  
 — It is the thing, Love! so such things should be —  
 Behold Madonna, — I am bold to say.  
 I can do with my pencil what I know, 60  
 What I see, what at bottom of my heart  
 I wish for, if I ever wish so deep —  
 Do easily, too — when I say perfectly  
 I do not boast, perhaps : yourself are judge  
 Who listened to the Legate's talk last week, 65  
 And just as much they used to say in France.  
 At any rate 'tis easy, all of it,  
 No sketches first, no studies, that's long past —  
 I do what many dream of all their lives  
 — Dream? strive to do, and agonize to do, 70

58 **It is the thing** = so such things should be とほぼ同義で「物はかくあるべし」の意

59 **Behold Madonna** / 「これこそ本物の聖母の顔だ!」の意, Madonna = Picture of Virgin Mary ; C. O. D.

60 **pencil** = artist's paint brush 細い画筆

65 **Legate** = Ecclesiastic deputy of Pope

---

であるから、ただ一時の人気取りの画家でなかったことは自明である。これを証明するように Jameson 夫人（欧州修道院の歴史の研究者）は次のようにいう。「Florence に旅した者は Annuntiata の聖堂（受胎告知の聖堂）を忘れなかりう。その美しい聖堂の僧房や前庭を彷徨した者は壁画の Madonna del Sacco や The Birth of the Virgin に心うたれて、それに心血をそそいだ、Andrea del Sarto の芸術家としての偉大さに感銘するであろう。此処は遠く13世紀のむかし Florence に聖母崇拜の Revival が勃興した時分に7人の貴族と富豪たちが驟然と世を捨て、財を貧しき者に施して、その頃はまた城外の森にすぎなかったこの地に自分たちで粗末な小屋を造って禁欲

けれども少くともあんたは人の噂は聞きうる筈だ：

あれ、あの素描、入口から二枚目のものだが、  
——あれが本物なのだ！ああいうものはあなくてはならないんだ——  
マドンナを見ろ！とわしは大胆にいうんだ。

わしは画筆さえとれば、わしの知る限りのもの、  
見るかぎりのもの、心の底で

求めるものの限り、本当に深く求めさえすれば——  
やすやすとかけるのだ、さらに——完璧に、といったとて  
おそらく自慢にはならない： あんたが鑑定人だよ、  
あんたは先週法皇使節の話をきいたわけだし、  
その通りを人々はフランスでも噂していたのだからね。  
ともかくやさしいのだ、なにに限らず！

- 最初のスケッチはいらない、習作もしない、そうなって長いことだ：  
わしには、多勢の人々が一生をかけて夢見ることが可能なのだ、  
夢見るとはね？ やってみようと骨を折り、苦勞して、

---

生活を始め、“Ave”を誦しながら神と人への奉仕をしていた由縁の地である。Florenceの子供たちは‘guardate i servi di Maria’「マリヤさまの僕たちをごらん！」と叫びながらその人々の姿を見守ったものだ。そのうちだんだんとこの「マリヤの僕たち」に参加する者が増してきて、とうとう The order of Servi という修道会が結成され、法王庁もこれを認めて15世紀の末にはここに美しい聖堂が建立されるに至った。その時壁画家として選ばれたのが Andrea であった」①と。それだけの名も実力も備わっていた逸才がなぜにこの詩に表現されているような憂鬱にとざされざるをえなかったか。画としては無謬完璧な作品が何の故に、彼の眼から見れば稚拙な Rafaelや

And fail in doing. I could count twenty such  
 On twice your fingers, and not leave this town,  
 Who strive — you don't know how the others strive  
 To paint a little thing like that you smeared  
 Carelessly passing with your robes afloat, 75  
 Yet do much less, so much less, someone says,  
 (I know his name, no matter) so much less!  
 Well, less is more, Lucrezia! I am judged.  
 There burns a truer light of God in them,  
 In their vexed, beating, stuffed and stopped-up brain, 80  
 Heart, or whate'er else, than goes on to prompt  
 This low-pulsed forthright craftsman's hand of mine.  
 Their works drop groundward, but themselves, I know,  
 Reach many a time a heaven that's shut to me,  
 Enter and take their place there sure enough, 85

78 **less in more** = 下手の方が優れているの意。

80 **vexed beating** = irritated searching for ideas (C.O.D)

81 **than** の次に the light that を補つて読む

82 **forthright** = straightway = 無雑作な

---

Fra Angelico の作品よりも下位におかれざるをえなくなったか。その複雑微妙な事実に対する感懐こそ、詩人 Browning がこの名篇の内容として捉えたものである。これは美とは何かという形而上学的な問題にまで溯るべきことかも知れぬ。ところが Arthur Symonds (An Introduction of the Study of Browning) はこれを人間の日常生活に即した実際問題として、詩人の心を付度し、Andrea の内面の非倫理性と道徳律の無視とが実在への無関心を生ぜしめたといっている。世界は束の間の現象にすぎないと見なす時には内裡なる律法を無視することができる。利得や感能の満足のために没義道や不道徳を行いうる人間は、所詮は浅薄な人間であり、その見るところ浅薄なら

しかも失敗するのだ。そういう連中を20名は算えうる  
あんたの指の数の2倍だ、それもこの街の中だけの話なのだ、  
その連中は骨を折る——その手合は  
ちっぽけな絵、あんたがひらひらさせる衣服の端で  
通りすがりに、うっかりとなでてしまうような小さな絵をかくのに  
どんなに苦勞するかをあんたは知らない、一しかも人の噂では実に拙い、  
まことに拙い（名はわかっているが、いう要はない）—実に拙いんだ！  
だがね、拙い方がいいんだ： ルークレチアよ、わしは審かれているんだ。  
つまり詰めこんだ融通のきかぬ頭脳  
心臓、その他を鼓舞している彼等の内面には、より真実な神の光が  
わしのこの脈搏の低調な、無雜作な職人風の腕を揮わせているものよりも  
もっと旺んに輝いているのだ：

- 彼らの作品は地に墜ちても、彼ら自身は、わたしには閉ざされていて、  
幾層倍も高い天にとどき、そこに入り、しっかりとそこに  
座をしめることをわしは知っているのだ、

---

ざるをえない。またその種の人間の芸術家が居るとすれば畢竟は小手先の器  
用な、描くところの皮相な、職人にすぎなからう。そういう芸術家には事物  
の真髓が表現しえられる筈はないのである。Browning の考える美とは単な  
る写実の妙とか、色調の均整とか、画面の調和などというだけのものではな  
い。それらの背後に、否それらと共に、しかもそれら以上に一つの精神性  
(Geist) の潜在が必須となっている。それが美をして真の美ならしめ、美を  
規制して美以上のものとする要素である。有限世界で捉えうる美しいものに  
永遠の相を与えうるものとは美を構成させている普遍的精神性の把握であ  
る。モナリザのあの微笑が永遠に生命の神秘を囁くのはそれだ。シャヴァン

Though they come back and cannot tell the world.  
 My works are nearer heaven, but I sit here.  
 The sudden blood of these men! at a word —  
 Praise them, it boils, or blame them, it boils too.  
 I, painting from myself and to myself, 90  
 Know what I do, am unmoved by men's blame  
 Or their praise either. Somebody remarks  
 Morello's outline there is wrongly traced,  
 His hue mistaken — what of that? or else,  
 Rightly traced and well ordered — what of that? 95  
 Speak as they please, what does the mountain care?  
 Ah, but a man's reach should exceed his grasp,  
 Or what's a Heaven for? all is silver-grey  
 Placid and perfect with my art — the worse!  
 I know both what I want and what might gain, — 100

86 **tell the world** = speak to the world

88 **The sudden blood** = easily excited temper

93 **Morello's outline** = showing shape of Mt. Morello

97 **a man's reach** = a man's final capacity

97 **his grasp** = his technical powers

---

ヌのあの「貧しき漁夫」のあの顔と傍の小児の寝姿とが、人生の厳肅さをわれわれに訴えるのはそれだ。コローの描く木立や平原や湖水にもそれがあればこそ千古に存続する自然美を物語っている。生命の永続性を信じ、靈魂の無限の発達を確信していた Browning は音楽の世界とともに絵画の世界においても、生命あるものと生命なきものとの区別を截然と見究めざるをえなかった。芸術品の真価は伎倆の巧拙によって定まるものではない。その蔭に何がひそむでいるかによって定る。彼のいう“Man's reach should exceed his grasp.”とはその意味であろう。換言すれば人間の価値は事業の成敗によって計量されるのではなく、本人が何を目標として生きたかによって計ら

## 仕立屋のアンドリア

彼らは地上に帰って、天下にそれを知らせる術はないがね。  
わしの作品は天に近い、だがわしは地上に居るにすぎぬ。  
一言でいえば——旺盛なのは彼らの血潮だ、  
よくいえば、それが沸きたつ、悪く云えば、沸きたちすぎる。  
わしは、自分で、自分のために絵を描くのだから  
自分のする事の意味を知っていて他人の非難にも  
賞讃にも動かされない。ある人は  
モレロの嶺の稜線の引き方には間違いがあるとか  
その色調は誤っているなどという、それは何のことだ？  
仮に正しく引いたとて、よく色調を整えたとて；それが何になるか？  
人々が勝手に云おうと、山はなにを傾着しようか？  
ああ、しかし人の可能性はその熟練を凌駕すべきものだ、  
さなくば天とは何のためだ？ わしの芸術としては  
一切は灰色に落ついて、しかも出来あがってしまった、悲しいことだ；  
俺は自分の欠点も長所たるべきものも知っている、

---

れる。画家の真価は伎倆によるのではない、彼の内面の incentive が永遠なものに根ざしているか否やによって定るとするのがこの詩の作者の意向でありこれが音楽に因むときに Abt Vogler となり、学問に因む時には Grammarian's Funeral となり、宗教性に因む時に Saul となるであろう。Andrea は悲しくもこの志操の高踏性に欠けていた、そしてこの致命的な傷に懊悩するのであった。これが Browning の詩的構想上の着眼点と思われる。

**Andrea の素性** 父は貧しい仕立屋 (Sarto) であった。それが「仕立屋の Andrea」の名の生じたわけであろう。彼は1487年に Florence の Gualfonda に生れた。苗字はよくわからない、Vannuchi であったともいわれるが別に

And yet how profitless to know, to sigh  
 "Had I been two, another and myself,  
 Our head would have o'erlooked the world!" No doubt.  
 Yonder's a work now, of that famous youth  
 The Urbinate who died five years ago. 105  
 ('Tis copied, George Vasari sent it me).  
 Well, I can fancy how he did it all,  
 Pouring his soul, with kings and popes to see,  
 Reaching, that Heaven might so replenish him,  
 Above and through his art — for it gives way ; 110  
 That arm is wrongly put — and there again —  
 A fault to pardon in the drawing's lines,  
 Its body, so to speak! its soul is right,  
 He means right — that, a child may understand.  
 Still, what an arm! and I could alter it. 115

105 **The Urbinate** — Raphael — Urbino の出身であるためこの仮名を用ゆ。

106 **George Vasari** は最初 Andrea の弟子であつた。当時絵の copy は本物と寸分違  
わぬように描いたものである。

109 **Reaching** は L110 の Above and through his art にかかる。

110 **for it gives way ;** = as his art is inferior.

---

実証はなさそうである。手先が器用なために、年少で金物細工の徒弟になっ  
 たが絵が好きなどころから師匠の意匠図描きを欣んで手伝っていた。つぎに  
 木彫師で画も描いた Gian Barill の徒弟となって1498年に11才に達した時、  
 いよいよ待望の専門画家のもとで本格的に絵画の修業のできる機会が到来し  
 た。というのは Florence 切つての名画工 Piero di Cosimo が彼を迎えてく  
 れたので、その許で Leonard da Vinchi や Michelangelo の下絵や素描の  
 模写ができるようになったからである。その後何年間これが続けたかは分ら  
 ないが、20才までの9年間には目覚しい伎倆の発達を見せたようである。そ  
 れは1509年、彼が22才の年に前述の Servi の修道院から「受胎告知の聖堂」

しかも「私が自分と別の人間との2体であったとしても、その頭はやはりこの俗界を見過したろうに」と、悟ろうと歎こうと詮なきことだ！ それに相違ない。

さて、そこに有名な若者の一作がある

5年まえに亡くなったウルビノー出身の者の絵だ。

(あれは模写で、ジョウジヴァサリがよこしたものだ。)

そうだ、わしはあの男がどんな骨折りをしたかはよくわかる、王たち、法王たちが御覧になるというので精魂をうちこみ力量の全部、それ以上に神に満たされるようにと背伸びをして描いている——伎倆に引け目があるからだ；

あの腕は誤ったつけ方だ——あそこにも間違いがある——

画の輪廓いわゆる絵の体においては

ゆるさるべき欠点である：- だがその魂は正しいのだ、

彼は正しいつもりだ——その事なら、子供でも分る。

それにせよ、何という腕だ！ わしなら直せるはずだ：

---

「The Chapel of the Annuntiata」の壁画の揮毫を依頼されていることでも分る。さらにこの際注意すべきは、その頃の彼はまだ美女の Lucrezia を知らず、彼女との結婚などは夢にも考えていそうにないことである。彼はもっぱら絵に精進したであろう。Leonard や Michelangelo は彼の日常修練の目標であったであろう。Annuntiata の聖堂から壁面揮毫の割当てをうけた時は天にものぼる欣びと誇りを感じたに相違ない。その心の躍動はまだ新鮮な彼の心の琴線を高鳴りさせたようだ。さればこそその時の作品が今日でも Servi の修道院の雰囲気をつくり、Annuntiata の聖堂に調和し、そこに訪れる人々に感動を与えるのである。ところが惜しいことに彼の画家として



But all the play, the insight and the stretch —  
 Out of me, out of me! And wherefore out?  
 Had you enjoined them on me, given me soul,  
 We might have risen to Rafael, I and you.  
 Nay, Love, you did give all I asked, I think — 120  
 More than I merit, yes, by many times.  
*But had you — oh, with the same perfect brow,*  
 And perfect eyes, and more than perfect mouth,  
 And the low voice my soul hears, as a bird  
 The fowler's pipe, and follows to the snare — 125  
 Had you, with these the same, but brought a mind!  
 Some women do so. Had the mouth there urged  
 "God and the Glory! never care for gain.  
 The present by the future, what is that?  
 Live for fame, side by side with Agnolo — 130

116 **play** = scope for activity

116 **stretch** = tension or strain

118 **enjoined** = imposed

127 **urged** = entreated earnestly

130 **Agnolo** = Angelo; Michelangelo のこと

---

の寿命はあまりにも短く、そこまでで終わった。1512年12月26日25才の彼は  
 Lucrezia del Fide と結婚した。それは Symonds にいわしめると、「Andrea  
 が人間としても芸術家としても、美しくて靈魂のない生命取りの妻によって  
 破滅をきたらしめる」*'to be ruined, as artist and as man, by his beautiful,  
 soulless wife, The fatal Lucrezia del Fide;*」そもその発端であった。尤  
 もその後とても彼に栄進と発展の機会がなかったわけではない。1516年(29  
 才)には彼の作品 *Pieta* と *Madonna* とがフランスの王宮に送られて、賞  
 讃を博したので、Andrea は Francis I の招待をうけて、Fontainebleau  
 の宮殿で「王の息吹を身に感じながら」画筆を揮う機運に恵まれた。王から

けれども、あの手法、洞観、緊張の一切は

わしには無い、無いのだ！ なぜ無いか？

あんたがああいうものを俺に授けていたなら、魂も与えてくれたはずで、

わしとあんたはラファエルまで昇りえたはずだ！

そうだ、妻よ、あんたはわしの求めたものはみな与えてくれたと思う——

わしの取柄以上に、そうだ、何倍にもしてくれた。

けれどもあんたがもし——その美しい額

きれいな眼、申し分のない口元

その低い声、それをきくわしの魂は、鳥寄せの笛を追ってゆく

小鳥のようにわなにかかるのだが——そんなものといっしょに

分別心をもってきてくれさえしたならばねえ！

できる婦人もあるのだ。この口がもし

「神とそのみ栄えのおんため！ 決して利得は求めません。」

未来あっての現在、その現在が何でありましょう？

名誉のために生きなさい、アグノロと並んで！

---

彼が受けていた待遇は、予想もできぬほど大きなものであった。幾年間でもその宮殿にとどまりえたはずである。ところが Lucrezia は一年も経たぬうちに頻りに彼の帰還を迫った。おもうに彼女の身分の低さからの僻みと姑息な嫉妬心のゆえであろう。Andrea の心は動いて王に帰還の許しを願った。王は折角の企ての挫折をおしんで期間を短かく切りつめて再度復帰の節はイタリアの美術品を蒐集持参するようにと、莫大な額の黄金を託した。これが Andrea にとって終生償いえない罪を犯さしめる機縁となってしまった。というのは Florence に帰還後彼はその黄金を流用して贅麗な邸宅を建てて豪華な暮しを始め、妻の徒らな虚栄心と浪費欲とを満足させて、ひたすら彼女

Rafael is waiting. Up to God all three!"  
 I might have done it for you. So it seems —  
 Perhaps not. All is as God over-rules.  
 Beside, incentives come from the soul's self :  
 The rest avail not. Why do I need you? 135  
 What wife had Rafael, or has Agnolo?  
 In this world, who can do a thing, will not —  
 And who would do it, cannot, I perceive :  
 Yet the will's somewhat — somewhat, too, the power —  
 And thus we half-men struggle. At the end, 140  
 God, I conclude, compensated, punishes.  
 'Tis safer for me, if the award be strict,  
 That I am something underrated here,  
 Poor this long while, despised, to speak the truth.  
 I dared not, do you know, leave home all day, 145

134 **incentives** = motives or incitements

135 **The rest** = those that are left の意。

141 **compensated** = は God の adjective と見る。均衡正しき神の意

---

の欲心を買うだけの生活に止ってしまったからである。耽溺の者はえて周囲を顧みない癖があるが、その例にもれず、Andrea も赤貧の両親を遂に飢え死させたと伝えられる。彼の靈魂はすでに害われている。それが憂鬱の根源であろう。

**妖女 Lucrezia** この女性が Carlo Recanati という帽子屋の妻であったという以外にその素性を知るべき拠所はない。1512年の暮に、Andrea が彼女と結婚したのは、おそらくその夫が死亡したためであろう。多情不倫な性質で夫の在世中にもいろいろの取沙汰があり、Andrea 自らもその渦中の一人であったとの噂さえ伝っているが、その真偽は不明である。非常に容姿の美

ラファエルが待つています； 三人そろって神に昇りましょう」と懇願してくれたら、わしはあんたに面じて出来たかもしれぬ。そう思われる：たがそうはゆくまい。すべては神の御支配のままだから。のみならず、発想は靈魂自体からくるものだ。その他は役にたたぬ。なぜにわしはあんたを必要とするか？ラファエルにはどんな妻がいたか、アグノロに妻がいるか？この世では、仕事のできる者はしようとはせず、したがる者はできないと、わしは見定めている：とはいえ意欲は幾分か役に立ち、能力も何かの役に立つ——だから吾々半端者どもはもがくのだ。いずれ最後は償いの御神が罰したまうと俺は結論している。その報いが厳しいとすれば、この世でわしは幾分か低くおかれる事はわしとしては安全なのだ。正直に言って、長い期間哀れな侮られ方であった。昼間は外出しえなかったのを知っているだろう、

---

しい魅惑的な女性であったことだけは確かなようだ。のこされた肖像によると、やや小柄で、丸味のある顔、均整のとれた肢体の肉づきは、つややかな皮膚とともに優に蠱惑的な魅力にとんでいる。ことにその微笑の美しさは彼を悩殺したもののよう一切の夫婦間の問題を解決するのであった。You smile? why, there's my picture ready made, There's what we painters call our harmony! と Browning は主人公に語らしめているが、地上最高の美をこの女性の顔に Andrea は見出していたようである。さればこそこれをモデルにいくたの Madonna を描いて、心に何の矛盾を感じなかった。また美女の典型とも思ったのか、いろいろのポーズで肖像画を描き、批評家の言葉に

For fear of chancing on the Paris lords.  
 The best is when they pass and look aside ;  
 But they speak sometimes ; I must bear it all.  
 Well may they speak ! That Francis, that first time,  
 And that long festal year at Fontainebleau ! 150  
 I surely then could sometimes leave the ground,  
 Put on the glory, Rafael's daily wear,  
 In that humane great monarch's golden look, —  
 One finger in his beard or twisted curl  
 Over his mouth's good mark that made the smile, 155  
 One arm about my shoulder, round my neck,  
 The jingle of his gold chain in my ear,  
 I painting proudly with his breath on me,  
 All his court round him, seeing with his eyes,  
 Such frank French eyes, and such a fire of souls

146 **chancing on** = happening to meet 出くわす

149 **Francis** = King of France, (1494—1547) Louis XII の継承者で全ヨーロッパに覇をなし、ローマ教会の機能をも支配した。彼は学芸を保護奨励し、イタリア美術の蒐集につとめた。Francis I とは彼のことである。

150 **Fontainebleau** パリの南南東 37 m のセーヌ河畔、森林の中のフランス王の壮麗な離宮で Francis I の構築したもの。

155 **Over his mouth's good mark** = Over his mouth which is good indication of his smile.

---

よると、たとえ他の婦人像を描く時でも Lucrezia の面影をどこかに偲ばせるものがあつたそうである。要するにこの女性は、Andrea には絶対に尊まるべき美の顕現であり、生命であった。その微笑は至上命令として彼の懐疑も逡巡も一挙に解決して、彼女の要求のすべては詮索をゆるさない託宣となるのであつた。妻が傍でほほえんで居れば、彼は活気づいて仕事にはげみ、彼女が憐いでしまえば、彼もまた滅入って画筆を揮う気にもなれなかつた。しかも彼女の多情の性はいつこうに改っていない。家の外では従兄弟とも友人ともつかぬ男性との交渉があるらしく、それらに貢ぐためか、それとも賭博の負債返済のためか絶えず夫に金銭を要求している。Vasari は曾て

## 仕立屋のアンドリア

それはパリの貴族たちに出くわすのを怖れたからだ。  
行きあった時は、わき見をしてくれるのが一番よかった；  
ところが始終彼らは話しかけてくる； それは我慢すべきだ。  
話しかけるのも無理はない！ フランシス王のこと、最初の時のこと、  
フォンティヌブルーでの長期の祭りの年のことなどだ！  
あの頃の俺は始終有頂天になってしまって  
ラファエルの日々の装いの栄光の衣を身にまとうて  
あの人間的な大王の竜顔のまえにいたものだ——  
王の1本の指は微笑にほころびるお口もとこ沿っている  
採みあげや頬髯の中にささえられ  
片手は俺の肩ごしに首をまかれていたので  
王の金鎖の音が耳にきこえた、そして俺は  
王の息吹を身にうけながら誇らかに画筆を揮ったが  
王をとりまく廷臣たちも、王と同じ眼射しで眺めていた、  
いかにも明るいフランス人らしい眠つき、豊かな温情の中で

---

Andrea の弟子であった関係上 相当ふかく彼女の人柄を知っているもののように「虚栄家で嫉妬ぶかく、猜疑心と浪費癖のある女」と誌している。要するに Lucrezia は、容姿の美は他に絶していたが、内面の心には何の閃きも香りもないばかりかむしろ俗悪不良の妖婦にすぎなかったようである。

**Andrea と Lucrezia** A. Symonds は前述の通りこの妖婦こそ Rafael に比すべき一美術家の生涯を破滅に導いたといっているが、果してそれが真実であるかどうか。またそれが、詩人 Browning のこの詩作の意向に合致すべき見解でありうるかどうか。これは慎重に考うべき課題であろう。たとえこの妻がどれほど不貞淫奔であったとしても、それが夫の芸術的意欲喪失

Profuse, my hand kept plying by those hearts, —  
 And, best of all, this, this, this face beyond,  
 This in the background, waiting on my work,  
 To crown the issue with a last reward!  
 A good time, was it not, my kingly days? 165  
 And had you not grown restless—but I know —  
 'Tis done and past; 'twas right, my instinct said;  
 Too live the life grew, golden and not grey —  
 And I'm the weak-eyed bat no sun should tempt  
 Out of the grange whose four walls make his world. 170  
 How could it end in any other way?  
 You called me, and I came home to your heart.  
 The triumph was to have ended there — then if  
 I reached it ere the triumph, what is lost?  
 Let my hands frame your face in your hair's gold, 175

168 **Too live** (laiv) = Too vigorous

173 **there** — 前行のyour heart

174 **then if I reached it ere the triumph what is lost?** — 「世間的な勝利者となるに先んじて汝の心に帰るといふ勝利に達したのだから」という意味

175 **frame** — 額ぶちに入れる。

---

の唯一の原因であると見ることは人間生活における女性の位置とか、夫婦生活における妻の責任などという道学的な観点に立つことで、詩の発想にはおよそ縁遠い考察法ではなからうか。一步進んで Andrea はこの美女に耽溺したがために、前進開拓の気概を失い、当時の Renaissance の革新的潮流に身を投じて新興美術の創造的局面に乗り出しえなかったのだと見ることに、これには多少の妥当性がある。何となれば、これは単なる写実主義に陥って凡庸な市井の一画工に陥ってしまった彼の芸術の面目を或程度説明するからである。けれどもこれだけのものではない。もし写実が彼のゆきづまりであり、そこから一度も出ようとはせず、そこに安住があったとすれば、“the

わしの手はそうした人々の心に支えられて精を出していた——

とりわけ、これ、この遠くにあったこの顔、

これが背後にあって、わしの仕事をたすけていて、

その仕上げに最後の褒美を飾ろうとしていたんだ！

結構なひととき、わしの王侯時代ではなかったかな？

それであんたが焦たくなりさえしなかったら……だがわしには分る——

それはもう済んだ、過ぎさった、それで良かったとわしの気持はいったのだ

生命が威勢よくなりすぎて、灰色どころか黄金色になったんだ、

しかもわしは眼の弱い蝙蝠だから四方の壁を世界とする

穀物倉から日向に出てはならなかったんだ。

他の方法では、それをやめさせえなかったろう？

あんたがわしを呼んだので、わしはあんたの懐に帰ってきた。

勝利とはそこに終らしめたことであつた — さすればわしは

勝利に先んじて、それに行きついたのだから、何が損失だ？、

さあ、わしの両手で、あんたの顔をこの金髪の額に入れさせてくれ、

---

sad, infinitely pathetic soul lives before us in Mr. Browning's lives.” というこの主人公の悲劇的形相とは一致しない。Andrea は技能の点では何人にも引けをとらぬ美術家をもって任じていながら生活の内容の点では禁欲の独身をまもり続けている Michelangelo や Rafael や Leonard その他の修道画家にくらべて雲泥の差のあるを思い、同時に、その生活の違いが彼らの画に、彼自らが持ちえない輝きのある神秘的な事実を感知しているのである。

「彼らの作品は地に落ちるが、彼らは天に昇る、その天は私には閉ざされている」との想いこそ彼の憂鬱の核心なのである。彼は身分の相違を意識してきた。その身分とは社会的の貴賤の隔りではなく、貧富の差でもない、画家と



You beautiful Lucrezia that are mine!  
 “Rafael did this, Andrea painted that —  
 The Roman’s is the better when you pray,  
 But still the other’s Virgin was his wife —”  
 Men will excuse me. I am glad to judge 180  
 Both pictures in your presence ; clearer grows  
 My better fortune, I resolve to think.  
 For, do you know, Lucrezia, as God lives,  
 Said one day Agnolo, his very self,  
 To Rafael …… I have known it all these years …… 185  
 (When the young man was flaming out his thoughts  
 Upon a palace-wall for Rome to see,  
 Too lifted up in heart because of it)  
 “Friend, there’s a certain sorry little scrub  
 Goes up and down our Florence, none cares how, 190

178 **Roman’s** = Rafael’s: Rafael は始終 Rome に居て法王庁の仕事をしていたので、かように呼ばれた。L 178 はお祈りの時に跪く対象としてはやはり Rafael の Madonna の方がよいというのである。

179 **the other’s Virgin** = Andrea 自身の描いた聖母像のこと

184 **his very self** = まさしく彼自身で (いつた) の意

187 **Rome** = The Roman Pope

189 **scrub** = insignificant person

---

しての品格の差異の意識である。この劣等感ほど芸術家として不面目不名誉なものはないであろう。この詩の Andrea はこの心理的重圧に苦しんでいる。そのよって来るところは Lucrezia との結婚であるが、それが原因となってフランス王の黄金の横領という破廉恥をしてしまった。美女は傍にあり、身は金箔で煉瓦の目塗りをした玉殿にあっても心は限りなく侘しかった。それをまぎらすために、無学で無分別な女房の前に自分の伎倆を誇示してみたり、同僚の苟且の称讃を繰返したり、曾ての榮譽の日を憶いださせたりしている。彼の心の深傷は、彼を阿片中毒患者のようにしてしまった。苦痛の一時しのぎに、破滅の毒をむさぼるように、彼は Lucrezia の蠱惑的な肉体に耽

ああ美しいルークレチア、これはわしのものなんだ！

「ラファエルはこれを描いた、アンドリアはあれを描いた；

お祈りの時にはローマの画家 (Rafael) の方がよい、

たがあの別の画家の聖母は実は画家の妻なのだ——」と

人々はわしの釈明をしてくれよう。わしはあんたの前で

二つの絵を見較べえたのはうれしかった； わしの好運は

次第に分ってくると敢て考えよう。

というのは、あんたも知るとおり、間違いないことだが

ある日アグノロが、彼の口から、ラファエルにいった事だが、

……わしはこの数年間それを忘れてはいない……

(それはあの若造が、法王さまが御覧になるという

宮殿の壁懸けのことで、工夫の限りをつくし

— そのためすっかり興奮し切った時であった) —

「君。誰だか衰れな駈出し者が、このフローレンスを

駈けつり廻っている、何をするのか誰も気にするものはないが、

---

溺を求めていく。之以外に彼には、たとえ東の間たりとも生命の慰安は見出しえないのである。ところが Lucrezia そのものが、果して自分のものかどうか、ともすると別の男のもので、自分は彼らの享楽の資金かせぎ……にすぎないのではないかとも思う。そう思うとますます気が焦って分別がなくなって、彼女の微笑の奴隷になってしまう。この詩の最も哀感切実な言葉とは 215 行から 221 行のあたりで、Andrea が妻の前に正直にフランス王から横領した黄金で、この壮麗な家を建てたとの心寂しい話をしたあとで、「せめては二人で愛しあわうよ」といった途端に Lucrezia が外出しようとした一瞬である。「あんたは出かけねばならぬつて？ いとこがまた来るって、外

Who, were he set to plan and execute  
 As you are, pricked on by your popes and kings,  
 Would bring the sweat into that brow of yours!"  
 To Rafael's! — And indeed the arm is wrong.  
 I hardly dare — yet, only you to see, 195  
 Give the chalk here — quick, thus the line should go!  
 Ay, but the soul! he's Rafael! rub it out!  
 Still, all I care for, if he spoke the truth,  
 (What he? why, who but Michel Agnolo?  
 Do you forget already words like those?) 200  
 If really there was such a chance, so lost,  
 Is, whether you're — not grateful — but more pleased.  
 Well, let me think so. And you smile indeed!  
 This hour has been an hour! Another smile?  
 If you would sit thus by me every night 205

192 **pricked on** = urged on せつかれる

194 **To Rafael's !** = To Rafael's Madonna!

---

に待っているって？ お前には是非逢いたいって、わたしにではなくて、あんたにね？」と心の底をもらす言葉である。彼は文字通り「天涯の孤独」である。その孤独さが自分の両親をも見殺してさほどの痛痒をも感じなかったに相違ない。これが見かけが美しく、内面の侘しい Andrea と Lucrezia の関係の真相ではなからうか。the sad, infinitely pathetic soul とは彼のことである。

しかし以上のような芸術論ないし道徳論よりの文芸批評は、この詩に対する本格的な批評とは実は私には思われぬ。ともすると作者 Browning の執筆の動機を曲解して批評家自身の主観を原作に掩い被らせる間違いをしている

今にそいつが、法王や王たちにせつかれて、君のように  
構図から仕上げまでを託されるとなると、君の額に  
汗をかくようになるかも知れん！」とね！

ラファエロの聖母だが； 事実あの腕はまちがっている、  
俺は敢てはしない——ただあんたにわかるように、

チョークをおくれ——はやく、この線はこうあるべきだ。

そうだ、だが靈魂だよ！ 彼はやはりラファエルだ、消しておしまい！

だが、俺の好むところとは、彼が事実を語ったとしても、

（彼とは誰か？って、まあ！ マイケルアグノロ以外にはないじゃないか？  
先程の言葉をもう忘れたのかね？）

現にその好機会があったのに、かようになくしてしまつても、

あなたはともかくそれを有難がらずに——むしろ欣んでいるんだ。

そうだ、俺はそう考えよう。あんたも笑はほほえんでいるね！

1時間ほどすぎてしまった！ そら、また微笑んでいるね？

毎晩こんな風に俺のそばに座していてくれるなら、

---

るのかも知れないと思う。それでここまでの論述を反省する必要がある。  
Symonds のいう妖婦影響論はある程度真実と思われる。もし彼女が賢婦良  
妻で、宗教的情操にとみ、Andrea を絶えず啓発激励していたなら、あれほ  
どの耽溺に陥らず、したがってあの破廉恥はなかったであろう。之を想わし  
めるのがこの詩の意向であると、仄目かすかのようなのである。少くとも「やが  
て Rafael にも匹敵すべかりし有能の画家が、精神性の欠如した人殺し風  
の (fatal) 女性のゆえに破滅してしまった」との言葉には、そうした非難の  
響きがこもっている。しかしこの種の一方的な道学的雰囲気は、どう考えて  
見ても、この沈鬱の美をやどす Browning の傑作の真意とは思われない。

I should work better, do you comprehend?  
 I mean that I should *earn more, give you more.*  
 See, it is settled dusk now ; there's a star ;  
 Morello's gone, the watch-lights shew the wall,  
 The cue-owls speak the name we call them by. 210  
 Come from the window, Love, — come in, at last,  
 Inside the melancholy little house  
 We built to be so gay with. God is just.  
 King Francis may forgive me. Oft at nights  
 When I look up from painting, eyes tired out, 215  
 The walls become illumined, brick from brick  
 Distinct, instead of mortar fierce bright gold,  
 That gold of his I did cement them with!  
 Let us but love each other. Must you go ?  
 That Cousin here again? he waits outside? 220

210 **cue-owls** = 啼き声をそのまま梟の名としたもの。

213 **God is just.** 神は厳しくいらせられるの意で、L207以降の気持全部を含めている。

219 **Let us but love each other.** = 之は右の訳文通りの意味と思われるが、さまざまの悔恨の想いに心をせめられ今は如何ともしがたい。せめては互の愛によつて心の慰めをえようとするのである。

---

Symonds の芸術批評、ことに文芸復興の芸術に対する彼の炯眼にはしばしば頭を垂れる想いがあるが、Browning の心の幽蔽には今一步の前進を要したであらう。

次は Rossetti の見た Andrea であるが、彼は本来発明性と独創性に欠けた凡庸な画家にすぎず、その優秀性は事物の表面の描写にとどまり、内面の実相は捉ええない。彼には観念もなく理想もなく、ただ現実を眺め、これを描くにとどまったというのである。これはよく「仕立屋」の芸術を批判しえたもので、cyclopedic に Andrea の本領を示す場合ならば、これで事足りるであらう。けれどもこれをもって、“Andrea del Sarto” という 1 篇の劇詩に

俺はもっといい仕事ができそうだ、分ってくれる？

もっと金がえられて、あんたにもっとあげられるというのだ。

ごらん、すっかり日が暮れてしまった、星が見える；

モレロの山が消えて、街灯が城壁をてらしている、

梟がターウーと呼名どおりに鳴く

さあ窓際を離れて——おはいり、お名残りに、

うんと娛しむつもりで建てたが、今は物寂しい小家の中に入ろう。

神はきびしくいらせられる。

フランス王は俺を許して下さるだろう： 始終夜になって疲れはてた眼で、

画笔をやめて上を見あげると

壁が光って見えて、煉瓦の継目がくっきりとしている、

モルタルでなく、凄く光る黄金なのだ、

あの国王の黄金で俺は煉瓦の目塗りをしたものだ！

さあ、せめては互に愛し合う。出かけねばならぬって？

いとこがまた来るって？ そとに待っているって？

---

対する批判とすれば大きな片手落ちではなからうか。もしこれを Browning に聞かせたならば、「Andrea はまさにその種の画家であった。しかし私があの詩を書いた動機はそれを示すためではなかった」と語るであろうと私には思われる。

ではいったい詩人は何を語っているか。それを発見するためには、直接に原文に即し、その行間の精神を汲みとり、276行に一貫する作者の心を追求せねばならない。換言すれば容観的に、冷静に、この詩そのものを読み、詩人の心にもぐりこむ必要がある。詩の初頭で Andrea は頼りない妻の愛をつなぎとめようとして、気の進まない画を描き金を作ってやろうと約束をして

Must see you — you, and not with me? Those loans!  
 More gaming debts to pay? you smiled for that?  
 Well, let smiles buy me! have you more to spend?  
 While hand and eye and something of a heart  
 Are left me, work's my ware, and what's it worth? 225  
 I'll pay my fancy. Only let me sit  
 The grey remainder of the evening out,  
 Idle, you call it, and muse perfectly  
 How I could paint were I but back in France,  
 One picture, just one more — the Virgin's face, 230  
 Not yours this time! I want you at my side  
 To hear them — that is Michel Agnolo —  
 Judge all I do and tell you of its worth.  
 Will you? To-morrow, satisfy your friend.  
 I take the subjects for his corridor, 235

225 **work's my ware** = 仕事は売りものだ、仕事を金にして、妻の歡心を買うにすぎぬが、その歡心さえもあてにならず、自分の空想かもしれないと想いが、I'll pay my fancy となる。

228 **Idle** = unoccupied

いる。彼はすでに敗残者をもって自ら任じ、残る生涯を Lucrezia の愛顧に  
 すがろうとの卑窟な哀訴を敢てする者のようである。疲労を訴えながらも妻  
 の機嫌をとることは怠りはしない。夫たる自分にはすでに幻滅を感じている  
 妻、自分の作品には理解がなく、理解しようともしない不貞の妻に、夫らし  
 い威厳を示しもせず、使途の怪しい金を買いでまで不浄の愛の仮面を被って  
 貰わうと焦っている。彼は、一芸術家としてはもちろん、一個の人格として  
 もすでにその尊厳を喪失している。しかもなお未練がましく、解らぬ者には  
 解る範囲で、自分の取柄を妻に知らせようとするのか、描こうとすれば素描  
 も習作もなしに何でも描けるとか、他人なら夢見るところを自分なら実現で

ぜひあんたに逢いたって？—あんただけ、俺といっしょじゃなくてか？借金だって？

賭博の借金の残りだって？ そのためにほほえんだのか？

そうか、ほほえんで俺を買収するんだね！ まだ支払があるのか？

手と眼と心の端くれが俺に残されさえすれば

仕事は俺の商品だ、どれくらいの値がするかね？

俺は自分の空想に支払いをしよう。できることなら

そとの黄昏の残光にしばらく座らせてもらって

あんたのいう、ぼんやりとしていて、もしかフランスに戻りえたら

1枚の絵、たったもう1枚の絵——聖母の顔を

どうすれば描けるかをじっくりと考えてみたいのだ、

今度はあんたの顔じゃないよ！ あんたはそばにいて——

マイケル アグノロが——俺の仕事を鑑定して、その真価を

あんたに話すのを聞いてもらいたいんだ。

いいかね？ 明日だよ、あんたのお友達のとりに応じるのはね。

その方の廊下の題材にとりかかろう、

---

きるなどと伎倆を誇示したり、妻が鼓舞激励してくれたなら Rafael と相並んで天にも昇りえたらろうと空莫な放言などをしている。そうかと思うと Agnolo や Rafael や Leonard 等の真価を認めて、彼等の座はすでに天にあるが、自分にはそれが閉されていると本音を吐いている。その点はさすがに彼の魂にも一縷の光明が残されているので、あのまま地下の暗にもぐらせるには惜しくも思われる。とはいえフランス王から依頼の大金を私して贅美の暮しをしながら、貧しい両親を飢死させたごときは没義道もはなはだしい。何がこんなことをさせたか？ それは妻の Lucrezia ではない、Lucrezia のふしだらを容認して、なお彼女の歓心を買わうとする彼自身の無節操、自墮



Finish the portrait out of hand — there, there,  
 And throw him in another thing or two  
 If he demurs ; the whole should prove enough  
 To pay for this same Cousin's freak. Beside,  
 What's better and what's all I care about, 240  
 Get you the thirteen scudi for the ruff.  
 Love, does that please you? Ah, but what does he,  
 The Cousin! What does he to please you more?

I am grown peaceful as old age to-night.  
 I regret little, I would change still less. 245  
 Since there my past life lies, why alter it?  
 The very wrong to Francis! it is true  
 I took his coin, was tempted and complied,  
 And built this house and sinned, and all is said.  
 My father and my mother died of want. 250

236 **out of hand** = extempore 即席に。

237 **throw (him) in** = add things to a bargain without extra charge 一品物を負けてやる。

249 **all is said** = all is alleged 一切は断定されている。

---

落がしからしめたのではないか。Edward Berdoe は「この人間は指先では絶妙な技を持つ芸術家であるが、その血液は仕立屋の職人たるにすぎない」それが Andrea の真相である。Fra Angelico は天使や諸聖人を描く場合に、聖母の前に額ずいて天来の光明をうけてから、恐るおそる画筆を揮ったというのに、Andrea は不貞不浄の Lucrezia をモデルとして Madonna を描き、豪然と「Madonna を見よ!」と誇る腐敗した魂の持主であった。詩人 Browning がわれわれに感受させようとするのは、この種の人物としての Andrea であると私には思われる。さまざまなふしだらな羅列、償いのつかぬ不正行為、わけても妻の無節操を容認しながら、彼女に頼ろうとする

仕立屋のアンドリア

肖像の方はさっそく仕上げよう——そうだ、そうだ、  
そいつがぶつくさいうなら、別の1枚2枚を、  
まけてやろう、合算すれば、その従兄やらの気まぐれの  
借金払いには足りるだろう。それどころか  
もっとましで、わしがいちばん気にかけていることもの、  
つまり、あんたの襲襟を買う13スクディの金も出るわけだ！  
妻よ、それでよろしいかね？ だがその男、  
その従兄とやらは、あんたの気に入るために、他にどんなことをしでかすかな

今宵はわしは老齡らしく気が落ちついてきた。  
何も心残りはない。このままで居りたい。  
わしの過去はあるがままだから 変えるべくもなからう？  
「フランス王へのあのあやまち！」それは事実だ、  
王の金を取った、誘われて、かまけて、  
この家を建て、罪をおかし、一切は審かれている。  
父と母とは飢えて果てた。

---

靈性の懦弱さ！、彼は Annuntiata の聖堂の壁画を描いただけで、本来の暗の子となってしまう。さればこそ同じ暗の子の Lucrezia と手を握りえたのである。彼は告白どおりに最早「審かれている。」光の国ではもう席は与えられていない。こう理解し會得した時に、薄明に座す彼ら夫妻の心持ちも、<sup>えたい</sup>為体の知れない金の授与の約束も、さまざまの空莫な誘示も、フランスの追想談も、妻に対する卑窟な態度も、すべてが理解される。暗の子は同じ暗の子にとりすがって、せめてもの安住をえようとするものだ。ところが相手はやはり暗の子であるから絶えず裏切りをづげる。「そらまた一従兄の口笛だ、ゆきな、愛するものよ！」この最後の言葉ほど、「限りなく哀れな

Well, had I riches of my own? you see  
 How one gets rich! Let each one bear his lot.  
 They were born poor, lived poor, and poor they died :  
 And I have labored somewhat in my time  
 And not been paid profusely. Some good son 255  
 Paint my two hundred pictures — let him try!  
 No doubt, there's something strikes a balance. Yes,  
 You loved me quite enough, it seems to-night.  
 This must suffice me here. What would one have ?  
 In heaven, perhaps, new chances, one more chance —  
 Four great walls in the New Jerusalem 260  
 Meted on each side by the angel's reed,  
 For Leonard, Rafael, Agnolo and me  
 To cover — the three first without a wife,  
 While I have mine! So — still they overcome  
 Because there's still Lucrezia, — as I choose. 265

Again the Cousin's whistle! Go, my Love.

255 **Some good son** — L 256 の “let him try!” の him と看做して

**Paint my two hundred pictures** — を使役法の文となす。

257 **strike a balance** = 差引勘定をする。

260 **the New Jerusalem** — ヨハネ黙示録3—12 :

261 **reed** = an ancient Jewish measure (124 inch) 黙示録 21-15参照「金の測りざお」

---

人間」としての Andrea del Sarto の面目をつたえるものはない。この1篇は一種の Deprofundis であり、そのための Browning の創作上の用意はきわめて深い。彼はやはり人生詩人であり、同時に厳肅なキリスト教の信仰詩人である。1532年 Andrea は45才の若さで死んだ。自殺でなく、伝えられるごとく疫病のゆえとすれば、彼の靈魂は救われたであろう。

(Oct. 30, 1964)

そうだわしには自分の富があったかな？ 富をうる途は、  
あんたには分ることだ！ 各々の運にまかせるがよい。  
わしの両親は貧乏に生れ、貧乏にくらし、乏しいまま果てた：  
わしの働きざかりには、幾分か働いたが  
ゆたかには酬われなかった。これはと思う若い者に  
わしの描いた200点の絵をかかせて見るがよい、やらせてごらん！  
確かに世の中には差引き勘定を零にするものがある。そうなのだ、  
あんたはわしを充分に愛してくれた、今夜はそう思う。  
この世では、これでわしは満足すべきだ。人は何を得ようとするか？  
おそらくは天界で、新しい機会に、もう一度の機会に——  
新しいエルサレムの大きな四つの壁面が  
天使の測り竿によって、各々の側に割当てられて  
レオナルドとラファエルとアグノロと俺の4人が  
絵を描くのだ——最初の3人には1人だって妻がないが  
わしには妻がいる！ その点——やはりその人たちの方が上位なんだ、  
そこにだってルークレアはいるからね——これはわしの好みだから。

そらまた、従兄の口笛だ！ さあゆきな、いとしい者よ。

---